教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

令和５年５月３１日
第５４２号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園
園長　髙沢　ゆみか

習慣は子どもの財産

先日、本園では４年ぶりに弁当参観を実施し、弁当時の子どもたちの様子をご覧いただきました。子どもたちは、おうちの方々が見守る中、少し緊張しつつも張り切って準備をしたり、うれしそうにお弁当を食べたりしていました。ちゅうりっぷ組は入園して約２ヶ月が経ち、お弁当の準備や片付けの仕方が分かってきて自分なりに取り組む姿が見られます。さくら組は、弁当時にテーブルを拭いたり挨拶をしたりする当番活動にも意欲的に取り組んでいます。保護者の皆様には、ご多用の中ご参観いただきありがとうございました。参観後にお寄せいただいたアンケートには「保護者同士でもお弁当の中身の工夫や、おすすめメニューについて話すよい機会になりました」というご感想もあり、保護者の方々に同じ場面を共有していただくことの意義を改めて感じました。

今回の弁当参観では、王子第五小学校の栄養士の先生を講師にお迎えし、小学校給食についてや幼児期の食事や食習慣についてご講演いただきました。実際に小学校給食の写真などを見せていただき、給食で使われる食材や味付け、栄養バランス、献立などについても知ることができた大変貴重な機会でした。子どもの好き嫌いや箸の使い方などについての質問にも丁寧に答えていただき、保護者の方からも「学校給食の様子やお弁当のバランスなどを改めて知ることができ、これからの食育にしっかり役立てたいと思いました」「これからは、苦手なものも食卓に並べるようにしたいと思います」「(先生にご紹介いただいた）箸の練習を家でもやってみたいと思います」といったご感想をいただきました。この機会をきっかけに、改めてご家庭と思いを一つにしながら、子どもたちの生活を幼稚園から小学校に円滑につないでいきたいと思います。

毎日の食事の際に身に付けた習慣は、例えば、正しい箸の持ち方や使い方が筆記具の持ち方や扱い方につながったり、正しい姿勢を保って食事をする習慣が授業を受ける際の座り方や姿勢の保持につながったりするなど、小学校以降の学習の基盤にも大きく影響します。幼児期に身に付けた正しい習慣は、子どもにとって一生の財産とも言えるでしょう。しかし、食事などの基本的な習慣は、日常の生活の中で いつのまにかとか 自然に 身に付くものではありません。大人が手本になって一緒に取り組みながら、子どもが身に付けられるように導く必要があります。

６月は、国が定める食育月間です。食事の楽しさを感じ、感謝の気持ちをもちながら、必要な習慣を身に付けられるとよいですね。ご家庭でも先延ばしをせずに、できることから、焦らず、根気よく取り組み、子どもたちの財産となる習慣を培っていきましょう。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 自分の好きな遊びを見付けて楽しみ、自分の思いや動きを十分に表す。
- 先生や同じ場にいる友達と関わる楽しさを感じる。
- 砂や水、空き箱など様々な物を使って、素材の面白さや見立てて遊ぶ楽しさを感じる。

＜さくら組＞

- 興味がある遊びにじっくり取り組む中で、試したり工夫したりする楽しさを味わう。
- 自分の思いや考えを友達に伝えたり、相手の話を聞いたりし、遊びや生活の中で友達と関わることをを楽しむ。
- 梅雨期の自然事象や身近な動植物の様子に興味や関心をもって関わる。